

さがみはら

市史編さんだより

第5号

2002.3.7

市史続編編さん基本構想を策定

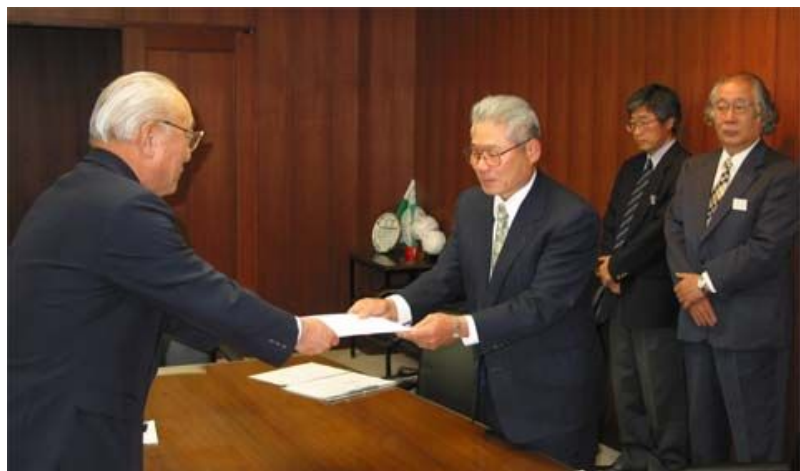
去る1月12日、今年度最終回となる第4回市史編さん審議会を、博物館大会議室において開催しました。当日は、全委員（10名）出席のもと、「相模原市史続編編さんの基本的な考え方」についての最終的な検討を行い、答申文を決定しました。

答申文では、市史続編編さん事業は「市民の協力を得ながら、継続的な調査研究や資料収集を進めるとともに、将来を見据えた資料の保存と活用を図ることにより、後世に誇り得るものとなること」が望まれています。概ねの内容は次のとおりです。

- ・ 現行市史に記述のない時代や分野について編さんを行う。
- ・ 市民に親しまれ、読みやすい市史を目指し、生活史や市民生活に重点を置く。
- ・ 子ども・高齢者・障害者・外国出身者等、多様な市民に配慮して編集・出版する。
- ・ 市民の参画を得た、基礎的な調査研究や資料収集を進める。
- ・ 国内外にわたる資料収集や調査研究を十分に行い、資料編の充実に努める。
- ・ 収集された資料の永久的保存と活用のため、文書館等の施設や組織体制を整える。
- ・ 市史続編は10巻程度とし、近代資料編・現代編・テーマ編・別巻を刊行する。
- ・ 全通史を読みやすくまとめたダイジェスト版を別冊として刊行する。
- ・ 書籍以外の媒体による出版や、本編以外の刊行物についても検討する。
- ・ 市制施行50周年に刊行する第1冊目は、写真・図版を中心とした現代編とする。
- ・ 市史の普及事業や広報活動に力を入れ、また、販売価格は廉価に押さえる。

この答申は、1月17日、山下会長から小川市長に手渡されました。

相模原市では答申を受け、さっそく「相模原市史続編編さん基本構想」の策定に着手し、庁内で検討を重ねた結果、2月20日付けで策定へと至りました。



基本構想の全文は、3～5ページのとおりです。市史続編の書名は『相模原市史』とし、「〇〇編」といったタイトルを併記することとなりました。第1冊目については、第二次世界大戦の終結から現在までの写真・図版資料によって構成した「現代図録編」とし、市制施行50周年に当たる平成16年11月の刊行を目指します。第2冊目は、文書資料によって構成した「現代資料編」で、平成18年の刊行とし、以後、毎年1冊ずつのペースで刊行を続ける計画です。現代編のほかに、テーマ別のものとして、自然編・民俗編・考古編・文化遺産編の刊行を計画しており、平成14年度からは、今後の刊行に向けて、自然や考古の調査にも着手する予定です。

前市史編集室の写真から3

これまでに、前市史編集室が撮影した写真の中から、鹿沼・大沼と宙水地帯の写真をご覧いただきましたが、本号では相模川の写真をご紹介します。



この写真は、昭和39年に撮影された、田名望地付近の相模川河原の様子です。かつて、相模川

では砂利採取が盛んに行われ、高度経済成長期の京浜地区のビルや道路建設などの骨材として大量に利用されました。しかし、砂利の取り過ぎによる河床低下などの問題を引き起こし、昭和39年3月31日をもって、相模川の砂利採取は全面禁止になりました。この写真が撮影されたのは禁止直後と見られ、川底にはまだ、採取用の機械らしきものが残り、手前（愛川町側）の水田地帯に砂利選別場と砂利山が見えます。

市史編さん室がスタートして、間もなく1年を迎えます。急ピッチで刊行の準備を進めてきましたが、ようやく基本構想策定まで漕ぎ着くことができました。市史続編は全10巻構成で進めることとなり、長丁場の編さんとなりますが、4月からは、より充実した体制で取り組んでまいりますので、引続き、みなさんのご理解とご協力をお願いいたします。

相模原市史続編編さん基本構想

平成 14 年 2 月策定

1 策定の趣旨

昭和 29 年 11 月 20 日に市制を施行した本市は、市制施行 10 周年を記念して、昭和 39 年度から『相模原市史』の刊行を開始した。その後、昭和 46 年度に全 7 巻の刊行が完結し、以来すでに 30 年が経過している。

このたび本市は、平成 16 年に市制施行 50 周年を迎えるに当たり、再び市史の刊行に向け「相模原市史続編編さん事業」に着手することとした。本事業は、既成の学問領域にとらわれることなく、新たな視点から市域の歴史や現状を見つめ直そうとするものである。また、事業を進めるに当たっては、市民に親しまれ、読みやすい市史の刊行を実現するため、市民の協力を得ながら継続的な調査研究や資料収集を行うこととする。

本事業を通して、市民の地域に対する関心と認識が高まり、貴重な自然や歴史・文化遺産が市民共有の財産として将来に継承されることを期待し、ここに「相模原市史続編編さん基本構想」を策定する。

2 編さん方針

(1) 名称

既刊市史と同名の『相模原市史』とする。ただし、各巻には内容の分かる表題を付記する。

(2) 基本方針

ア 既刊市史で扱われていない時代や分野の編さんを基本とする。

イ 歴史的記述については、昭和 20 年 8 月 15 日の第二次世界大戦終結から現在までの時代に力点を置きつつ、必要に応じて時代を溯って記述する。

ウ 編さんは、幅広い視野に立ち、歴史的事象に加え、考古・民俗・美術史・自然科学等の諸分野に及んで行う。

エ 政治・経済史や行政史に偏ることなく、生活史の観点や市民生活の視点を尊重して記述する。

オ 子ども・高齢者・障害者・外国出身者等も含めた多様な市民に、十分配慮し編さんする。

カ 調査研究や資料収集に当たっては、市民や市ゆかりの研究者等の参画を得る。

キ 相模原市域にとどまらず、国内外にわたる資料収集や調査研究を十分に行い、科学的信頼性と記録性の高い市史とする。

ク 市史編さんで収集された資料を永久的に保存し、その活用を図るための方策を検討する。

3 刊行巻数及び内容

(1) 構成

ア 市史続編は、「近代資料編」1巻、「現代編」4巻、「テーマ編」4巻、「別巻」1巻の全10巻構成とし、内容は別表1のとおりとする。

イ 別冊として、全通史をまとめた『市史ダイジェスト版』を刊行する。

(2) 体裁

ア 文章が主体となる巻については、既刊市史と同様のA5判とするが、写真・図版類の掲載が多く見込まれる巻については、大判化を図りつつ、軽量化に努める。

イ デザイン的に優れ、品質の高い『市史』となるように努める。

ウ 書籍以外の媒体での出版についても検討する。

(3) 付帯事業

ア 定期刊行物として『市史編さんだより』や『市史研究』を刊行するとともに、『市史叢書』『市史目録』『市史調査報告書』等を随時刊行する。

イ 講演会・講座・学習会等の事業を実施する。

(4) 頒布方法

ア 『市史』その他の刊行物は、市民が購入しやすい価格設定とする。

イ 『市史』の普及と販売促進のため、広報活動に力を入れるとともに、市民が購入しやすい方法を検討する。

4 刊行計画

刊行計画は、別表2のとおりとする。ただし、資料収集や調査研究の進展状況等によって、適宜、見直しを行うこととする。

5 組織

(1) 市史編さん審議会

市史編さん事業にかかわる重要事項については、「市史編さん審議会」に付議するものとする。

(2) 市史編集委員会

市史各巻や付帯刊行物の内容及び編集方針等については、「市史編集委員会」で定める。

(3) 市史編さん室

市史編さん事業の事務局として、事業の円滑な推進に努める。

(別表1)

市史続編刊行内容

巻名		内容
近代資料編		既刊市史にはない大正2年から第二次世界大戦終結までの文書類を中心とした資料編。
現代編	現代図録編	第二次世界大戦終結から現在まで(以後、戦後)の写真・図版類を中心とした資料編。
	現代資料編	戦後の文書類を中心とした資料編。
	現代通史編	戦後の通史をまとめた記述編
	現代テーマ編	軍都計画・基地問題・都市化等をテーマとした記述編。
テーマ編	自然編	動物・植物・地形・地質・気象・環境等に関するテーマ編。
	民俗編	伝統的な暮らしや生業、伝承等に関するテーマ編。
	考古編	遺跡や埋蔵文化財を中心としたテーマ編。
	文化遺産編	社寺資料等の文化財や近代化遺産等に関するテーマ編。
別巻		戦後年表・掲載資料総目録・総目次・索引等。

(別表2)

市史続編刊行内容

内容 / 年度		13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26
近代資料編								●	
現代編	現代図録編	●										
	現代資料編	●								
	現代通史編	●					
	現代テーマ編	●			
テーマ編	自然編	●							
	民俗編	●						
	考古編	●				
	文化遺産編	●		
別巻															●
ダイジェスト版															●
市史研究				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
市史叢書									○	○	○	○		○	
市史目録						○	○					○			
市史調査報告書							○	○	○	○		○			

(注) ●○は、刊行年度(印刷・製本)。

..... は、準備期間(資料収集・調査研究・執筆・編集)。



編さん室の動き (1~2月)

月	日	内 容
1	4	仕事始め式
	5	『市史編さんだより』第4号発行
	12	第4回「市史編さん審議会」開催(博物館大会議室)
	16	市史編さん審議会答申について総務部長・木下助役と打ち合わせ
	17	「市史続編編さんの基本的な考え方について」答申書手交(市長室)
	18	津久井町町史編さん室・井上氏調査来室
	24	市史在庫移転(愛川町内倉庫)
	29	全国歴史資料保存利用機関連絡協議会関東部会月例研究会出席 (田所主幹・浜田学芸員、東京都公文書館)
	30	非常勤特別職「市史編さん特別顧問・調査員」設置について市長決裁 ホームページ作成研修会出席(井上副主幹、本庁)
	31	「市史続編編さん基本構想」について主管会議(本庁)
2	1	神奈川県自治研修センター講演会出席(井上副主幹、同センター)
	5	安全運転適性研修会出席(浜田学芸員、本庁)
	6	経済部研修会「相模原畑地灌漑事業について」出席 (井上副主幹・浜田学芸員、本庁)
	7	市史続編編さん基本構想について政策調整会議(本庁) 産業技術史国際シンポジウム参加(浜田学芸員、国連大学) 文化財保護室打ち合わせ会議出席(井上副主幹、本庁)
	13	大沼・川井家資料調査(浜田学芸員)
	20	「相模原市史続編編さん基本構想」市長決裁・策定
	22	兵庫県尼崎市立地域史研究史料館視察調査(浜田学芸員)
	28	写真収集について広聴広報課と打ち合わせ (井上副主幹・浜田学芸員、本庁)

「さがみはら市史編さんだより」第5号

発行 平成14年3月7日

編集 相模原市総務部総務課市史編さん室

〒229-0021 神奈川県相模原市高根3-1-15 市立博物館内
TEL 042(750)8025 / FAX 042(750)8061